
My lover is CLAZY

彼岸花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

My lover is CLAZY

【Nコード】

N8616N

【作者名】

彼岸花

【あらすじ】

英西です。

雨と太陽、相容れぬ二人の話

1 (前書き)

エロです。

連載ものですが、ところどころ残酷な描写あります。

注意してください

「なあ・・・アーサー」

掠れた、涙声が聞こえた。

雨があいつの顔をかすませる。

「ほんまに、好きやったんよ？」

俺は、申し訳なさど後悔が湧き出ているのを感じるだけで、うつむいたままだった。

もう、あいつの顔を直視できない。

「アントーニヨ・・・本当にごめん」

「ごめんで済むとも思っ取るのか!？」

激しい、あいつの声。

泣いてるんだと思う。

手を伸ばす。

すぐに、あいつの感触が手に触れる。

そのまま抱きしめる。

「アーサー・・・なんで・・・こんなことになったん？始まりはいつかからやねん・・・」

掠れた声が耳元を這う。

俺はなんとも言えず、ただあいつの体を抱きしめた。

不意に、あいつの泣き声が轟いた。

子供みたいに、いつまでも泣いていた。

太陽が沈んだ。

雨雲の間から夕焼けの光が差し込む。

「始まりは・・・俺が太陽を求めた頃からだ」

アントーニヨはその言葉にびくつと体を震わせた。

俺は、耳元でささやいた。

「ごめんな、俺の太陽。笑って？雨はもう懲り懲りなんだ・・・」

アントーニヨは俺の方に顔をうずめ、小さく頷いた。

1 (後書き)

えー・・・始まったばかりで「は？」っていう感じでしょう。
気長にお付き合いください・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8616n/>

My lover is CLAZY

2010年10月9日06時35分発行